

「黒瀬川と仲良くなるう」

講師：宗岡洋二郎

市内にある寺西小学校(太田美鈴校長)の総合学習「黒瀬川と仲良くなるう」が、広島大学マスターズの宗岡洋二郎会員を講師として実施された。魚が専門の中川平介会員も応援にかけつけ、原野昇会員がカメラマンとして参観した。

二学期が始まったばかりの2009年9月2日(水)快晴に恵まれて、午前8時30分、4年生全員147名が校庭に集合し、1日の予定を聞いた後、学校近くを流れる黒瀬川の目的地、六日市橋の下流約100メートルの所まで、約10分歩いて到着。そこで宗岡会員から川に入る前の注意を聞いた後、早速手に網やプラスチックの水槽を持って川に入っていった。

水量は比較的少ない方であったが、膝までつかりながら、勇敢な子供は胸あたりの深さまで行って、魚やカエルやヤゴなどの生き物を捕まえていた。宗岡会員も、上流から下流まで約200メートルに散らばっている児童たちの間で質問攻めに会いながら、網の使い方などの指導に休む暇もなく動き回っていた。ハヤ、ギンブナ、ムギツクなど捕まえた魚の名前を教えてもらおうと、その場で魚を川に返し、約1時間川の中で学習した後、川から上がった。



この授業は、寺西小学校区まちづくり推進協議会の支援で実施され、事前に地区の人たちが土手から川面までの草を刈ったり、土手から川まで歩いて降りる斜面の道にむしろを敷くなどの準備をし、当日は板谷巖・協議会会長、杉原紘哉・寺西公民館館長も参加し、川から上がった児童たちにジュースの差し入れを行った。

学校に帰って着替えた後、11時から12時まで全員体育館に集合し、野外学習のまとめの話を聞いた。最初は、黒瀬川の水質保全の活動をしている寺西小学校区女性会の代表として片山節子会長が、食用廃油から作ったプリン石けんを児童全員に配り、合成洗剤の使う量を減らし、みんなの手で黒瀬川の水をきれいに保つように呼びかけた。



器の中でホタルと同じ発光をさせる実験

続いて宗岡会員がパワーポイントを使って、魚が環境によって体の色が変わること、ホタルの発光には覚醒剤と類似した化合物が関わっていること、そこから覚醒剤の恐ろしさへと話を進め、最後にホタルの発光のしくみを実験するために部屋を暗くして、児童の代表2人に前に出してもらい、2つの物質をガラスの器でまぜ合わせてもらった。そのとたんにガラスの器の底が光り、会場から「わーっ」と歓声が上がった。

宗岡洋二郎会員のお陰で、小学校4年生の貴重な野外学習に、広島大学マスターズがささやかながら貢献することができたと思っている。（原野昇記）